

磐城新報

恭賀新年

文福堂

丸山印刷所

遠藤帽子店

關内藥店

ソルヤ洋品店

平町四丁目

新古書雑誌・講談本
繪本類も豊富に取揃へあり

平町四丁目(停車場通角)
マル柴田書店
電話二三三四

平白銀町
丸山印刷所
電話七五七番

平町二丁目
遠藤帽子店
電話八三四番

平町四丁目
關内藥店
電話四〇番

平町四丁目
ソルヤ洋品店
電話一四〇番

對支外交指南 (一)

特(外人不可讀)

◎國業

萬機の乾綱を神武建國の大理想に還元し、開國進取、東亞の大局を安定し進んで皇道の威徳を宇内に宏張せんとするもの、是れ即ち明治中興の大精神である。

渾沌たる支那と亞細亞と世界を巨救するの途唯一つあり、神州日本が、東洋の大陸に莊嚴偉大なる國基を確立すること即ち之れ也。

◎支那及支那人

現代支那は、支那五千年來の歴史上未曾有の晦亂滅裂の狀態に在る。漢民族は先天的に徹底的我利己の民族である。大道廢れて仁義あり古より支那に王道の叫びはる所以である。支那は唐代を以てその最盛期となす。宋代以降漸時退化凋落し、現代に迫りて倍々太だしい。その民情公私共に應酬交際悉く巧言令色、諂諛虚飾、詭辯巧構、陰謀讒譖、自家の權勢利慾を逞しうするの外、寸毫の誠意もなく道義もなく氣概もない。彼等軍閥、政客等が或は三民主義を唱へ、或は打倒帝國主義を揚言し、或は條約廢棄を叫び、國際的信義や恩義を蹂躪して顧みざるも亦同一心術である。外交問題を政權争奪の具に利用せんとするものは支那に學

◎支那最近

近の情勢を目して北伐完成、國民革命成功、國內和平統一となす者は、實に支那及支那人を識らざるの甚しきもので、之れを公然聲明するに至つては、その無智の勇氣に愕かざるを得ない。

狂瀾逆捲く大海の奥底には、森嚴なる萬古の靜寂がある。支那の政體、學匪、軍匪、土匪は即ち海面の狂瀾に過ぎない。孔子の心を以て秦皇の事を行ふ眞勢力の擡頭するなくんば、支那の前途は遂に土崩壤滅あるのみ。

◎對支對滿の峻別

滿蒙は、是れ支那化外の疆域、前清朝封禁の故地である。支那がその統治力を滿蒙に喪失してより、既に三十年を越え、會ては全然露國の占領に放任して顧みざりしこと正に五ヶ年、我が帝國の國運を賭せる日露戦役によつて、彼れを驅逐することなかりせば、滿蒙は勿論、支那本土の運命も、おそろしくは印度とその揆を一つにしたであらう。

爾來茲に二十有余年、滿蒙は其治安、其開發、其發展亦全く帝國の經營努力に依る。惟ふに我が國に對して故らに禍心を懷く者にあらざる限り、孰れか滿蒙を以て我が特殊地

域に非らずとなすものぞ(寧ろ支那それ自体が我が特殊國にあらざるなきか)而かも滿蒙の我が特殊地域たるや、吾人日本人たる者、何ぞ、支那及列國の承認を得て、然る後初めて我が特殊地域なりとすべきでない。彼等をして之れを承認せしむるの意志に於て然かあらねばならぬ。

發行日 五、十五、廿五(三回)
福島縣石城郡平町白銀町
十五番地
發行所 磐城新報社
編輯兼發行人 印刷人
高木 喬
本紙定價 一部拾錢 一月廿錢
廣告料 場所指定 拾錢 増

◎東洋治亂のクサビ

滿蒙は、支那の國家的陣地の突角、西伯利亞の側防、我が帝國經濟の前衛である。即ち日、支、露三勢交會の要點に在る。而して現代世界の國際的低氣壓は正しく東洋の支那である。この低氣壓の誘致する政治的龍卷即ち戰禍の端緒は、歐州大戰の端緒が露、獨、佛の國境に起らずし

て、巴爾干の山地に發し、東京大震災に誘發された龍卷が、市の一隈海陸氣流の交會点たる本所區に起れるが如く、支那の關外滿蒙の地に勃發するのそのれがある。

而かも支那の統一安定は恰んぞ絶望的である。其の反覆して停止せざる紛亂動搖が滿蒙に波及する限り、東洋の安定は望むべからず、帝國の脅威は除去されぬ。故に滿蒙を支那の紛亂より隔離して、其治安を確保するは東洋の大局を安定する要訣である。而も是れ支那の爲にその過分の重荷を除き

露國の爲にその侵襲的舊惡を改善せしむる所以でもある。實に滿蒙は東洋治亂の楔子である。

今次の南京、奉天妥協問題は上述の要諦に逆行するのみならず、國民政府一流の過激な政治的變革を滿蒙に招致し遂に憂ふべき一大事態を惹起するに至らんこと必然である。今回我が帝國政府の奉天政府に致せる勸告は適切至當の措置として是認すべきである。

但し此勸告に伴ふ確固不拔の一大決心ある事を前提とする

過る六月一日發表の民政黨對支外交第一次聲明に曰く「吾人はその(支那)最近の狀況が國內の和平統一に向つて一步を進めたるの觀あるを悦び、同國民のこれを希求する努力の成功を祈るものなり」支那國民の福祉に寄與すべき友好的協力は及ぶ限り之を提

供するの覺悟あるを要す」と右聲明に對する反應は靦面である。

支那國民政府次席中央執行委員李烈鈞自署、日本民政黨演説に曰く(七月十五日、東京日日新聞)

右の目的を達成せんがため、貴國民黨とわが民黨とは衷心より誠心誠意を以て連繫の途を講じよう

貴國民黨と我が民黨とは共に各々その國民の意志を代表して相互國民の利益増進に努めよう、あるものなれば今後いよいよ近密の關係を持続せんことを切望す。

次いで同李烈鈞發民政黨總裁濱口雄幸宛意見通牒に曰く(七月廿五日報知新聞)

日本の民政黨並に支那の國民黨は各自國の民衆を指導し、かつ相互に國家の正當の利益を尊重せねばならぬ、若しこの利益を妨害するやうな行動があれば根本的に矯正せねばならぬ、中國國民黨は既に支那を統一したから、今後日本は民政黨援助に盡力すべく云々

同李烈鈞發民政黨顧問床次竹次郎宛電報(七月廿六日東京朝日新聞)

支那の真相は日本人士に不明の處あり、兩國の責任あり名望ある名士が往來遊歴して云々と床次氏の渡支を促し來る。

民政黨に對する支那國民の友好的協力の如し。民政黨員たるもの宜しく寒温の涙滂沱たるべし。兎に角「支那は國民革命を完成して國內を和平統一した、今度は日本が民政革命の順番である、支那國民黨の日本民政黨に對する友好的協力は及ぶ限り之を提

供しやう」といふのだ。要するに支那盲症の自ら求めて惹起した悲惨なる滑稽である。其他我が國內の新聞紙の皮相主義政黨論並に新聞紙の皮相主義政黨論が、如何に我が國威國權を自瀆しつゝあるかは推して知るべきである。

外交的腐儒
精確直白なる事物の意義

を閉却し、事物の符號に注意してその實際に注意しないのは、現代の大患である。即ち土地の代りに其の地圖を、動物の代りに其の名稱と分類を、生きて働く人間の代りに其の統計と記録を、勝敗を競ふ闘争の代りに其の慣例と論理を要するに口舌の端末、印刷せる言語、又甚しきは抽象的名目ののみ注意する。而してこの徒輩は言議倍々滋くして倍々抽象的となり、從つて倍々實際に遠ざかり倍々欺騙の性を帯びて、殊に國家社會、政治、外交に關する時に甚だしい。遂には彼等自ら矛盾撞着に陥り、自縛自縛に七轉八倒し、惡聲を揚げて徒らに他を罵るに終る。

最近發表せる民政黨の對支外交に關する第一次、第二次聲明の如きは其の適例ではないか。悉く是れ、抽象的名目、空疎なる辭句、國際的流行語の羅列であつて、何等日支關係の真相、支那國情の實際に觸れてゐない。

「外交の常道によりて、支那官憲と熱議協商し」支那の何處に此の如き威信ある官憲があるか? 「短期間之を附近の安全地に集中避難せしむ」濟南二千の居留民を此の如く「吾人はその最近の情勢が、國內の和平統一に向つて一步を進めたるの觀あるを悦び同國民のこれを希求する努力の成功を祈るものなり」と放言するに至つては、其の淺慮妄斷に呆然たらざるを得ない。

(以上第一次聲明批評)
「支那國內の和平統一を期す」內政不干渉を神託の如く奉持する民政黨の無意志外交に「期す」の言葉は禁物である。之れを「わが國既定の外交方針」と妄斷し、剩へ「若し林總領事がこの方針に反し

支那内部の政治組織に空疎するが如き言辭を敢てしたるものぞせば云々」と假定して、議論を繰返し、遂に「妄に支那の和平統一を妨ぐる云々」と抽象的空論界をも突破するに至つては、民政黨の爲に哀れを催ふざるを得ない。願はくは、祖國に對する信仰を恢復し、眞に「支那の情勢を洞察し」、「世界列國に卒先して「東亞のために百年の長計を樹つる眼識を」修業された

い。以上第二次聲明批評)
學は進まざる無益でない。其他の政黨、政派及言論機關の議論亦同斷なり。

◎準國賊罪
南京事件、濟南事件、條約廢棄問題、滿蒙治安勸告問題等未だ戰端こそ開かね、支那は今、現に帝國當面の係争國である。然るに、この重大時局に直面して、我が朝野の政黨政派及新聞紙中に、奇怪にも公然名を外交批判に藉りて妄論橫議し、森嚴なる我が帝國外交の鋭鋒を挫き恰も祖國に抗敵して係争國を援護するが如き言動をなす者がある。吾人は天則と正理に信賴し帝國の存立と東洋平和の爲に外交の難關は勿論之れを要すれば戰爭をも廻避すべきに非ざるが故に、支那の狂暴外交や列國の誤解は敢えて慮る所にあらずと雖、唯最も憂慮に堪えざるは彼等國內の支那探的徒輩である。

帝國刑法
第八十一條 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シテ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス
第八十五條 敵國ノ爲メニ間諜ヲシタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス
國民道徳の最低限度を規定せるもの一即ち法律である!

【以下次號】

郷土の生める製薬王

星一氏新聞賣子の場面

アヘン問題の爲め眞裸体になつた氏の一舉を社會が視聽す

資本金 何千萬圓とか何億圓とかいふ日本第一の製薬會社の社長星一氏は、福島縣石城郡錦村で、明治六年のクリスマスの日に生れた人で、何といつても一代の風雲児だ。前年歐米を漫遊の途獨逸で理化學研究所に、毎二千圓萬圓を投げ出し、毎年二千圓宛寄贈することに、マールク相場が安くなったのを狙つて、氣取りの甘さは、彼の社債發行に好成绩を収めた同一轍で、彼も亦實業界における一個の鬼才だ、この星一氏が青年時代に、新聞賣子をしたものだといふから驚くだらう。彼は二十才で高等商業を出たほどの秀才であつた、まづ渡米するつもりで、幾分かの旅費を用意したが、さて考へた、生れた日本さへロクク、知らないでは一人前のガイドにもなれまい、これは考へものだ。

先づ日本を知つてから考へ直して、旅費をその儘銀行に投りこみ、金貳圓で神田の古本屋を漁つて尤もらしい古本數冊を買ひ、それをたよりに内地視察と出かける事にしたやがて、大阪へ着いた時は、臺中余すところ

僅かに、十七錢きりしかない、仕方なしに木賃宿へ入り込んで善後策を考へた、が幸

にも拾つてくれた人は故高橋健三氏だ、その好意で大阪朝日と大阪毎日と二十枚ばかりづつ貰つて梅田のステーションや河口へ立つては新聞賣子の仲間へ入つて何週間か暮した、すると高橋氏は大に惚込んで「金をやらう」といひ出した。そこで星一氏は「イヤ御免蒙りませう」と頗る簡單に断はつてしまつた。そこで

餞別代りに新聞社の諸君から書籍數百冊を貰ひうけ、夫を資本に又一つ旅行するつもりだつたが、折も折、大阪商船で、船の中で働いてくれるなら航路の限りは乗せてやるといふて来た、彼は「占めた！」とばかり早速船に乗り込んで、その後九ヶ月目で漸く目ざす所北米桑港へ到着した。

それから紐育へ行つて猛烈な奮闘苦學數年、遂に明治卅四年コロンビア大學を出てマスター・オブ・アーツになつた。それから暫く米國に止まつて、「ジャパン・エント・アメリカ」といふ英文雜誌を出したり邦文の日本雜誌など出して相當米國人にも敬意を拂はれ、その後農商務省の囑託で南北兩米の商業視察を三ヶ年やり、外資輸入に骨を折つたり、セントルイス博覽會に英字新聞を出したりして盛んに活動した。それから歸朝後、星製薬會社を創業し、四十一年には一度代議士に出たが、四十五年には落選したので、一意専心製薬業に没頭したが、大正十三年に石城郡政友會諸種の事情の爲め決意して民政

次號豫告

何れが是か否か
目下係争中の
平魚市場
問題の真相

今や平魚市場と三國屋外一二の表面と内面とに關しては種々取沙汰されて居るが、實際三國屋その一黨はどんな事をなしたか、あるか、その表面と内面とを忌憚なく一般讀者の前に提供して反省を促すべきものは反省を促し又推賞すべきものはあらば之を推賞し眞に社會の爲めになる市場とは如何なるものかを社會に知らしめたいと云ふ主旨から、目下係争中の魚市場問題の解剖をして見る事としたが、貌診といふ醫家診断の秘法がある。患者より受くる第一印象によつて疾患の程度傾向を判する事をいふ、醫家もこれが出来るやうになれば勿論大家である、記者の貌診大家のそれは、折違ひであるが、粗上の診察はこれ第六感を賣物の新聞記者の之に關する投書大歡迎す、御投稿を乞ふ。

恭賀新年

代議士
木村清治

縣會議員
山崎吉平

縣會議員
鷺清昇

縣會議員
野崎滿藏

植田郵便局長
馬上守一

警城工業商會
中村佐治助

謹賀新年

令 釀山崎合名會社
元 造 山崎清三
電話 營業部 一〇番
製造工場 二七番

高久病院
電話 五一三番

市原病院
電話 一一四番

赤心堂病院
電話 四七五番

松村病院
電話 一〇七番

山田盤磨
福島民報平支局長

秋元丑藏
双葉郡川内村長

猪狩好太郎
双葉郡川内村助役

河原武
双葉郡川内村収入役

村會議員一同
双葉郡川内村

小野園次郎
平長橋町

吉田勝衛
平郵便局

鈴木武雄
平町田町

古川兼松
五工場
平南町(電話六七〇)

松本屋問屋
平町四丁目
電話 二二四番

スガノヤ
平町四丁目
電話 七二二番

遠藤パン
主 小山田吉治
平釋前 電話 七四六

出火御見舞御禮
謹啓去三十日自巳所有に係る平劇場出火の際に早速御馳付消火に御盡力被下且つ御叮嚀なる御見舞を辱ふしたる段厚く御禮申上候實は早速拜趨御禮可申上之處混雜中に付乍畧儀以紙上御禮申上候
昭和三年十二月卅日
加藤丈夫

謝近火御見舞
警城新報社
高木喬

謝近火御見舞
白銀青年幹部一同
白銀火防組一同
北條直
平野喜作
菊田萬吉
草野清治
綠川三郎
藤居商店

謹賀新年
御大典後の第一新春の年頭に當り讀者諸氏の御一家が益々御隆盛ならん事を奉祈念候
昭和四年一月元旦
警城新報社
高木喬
外從業員一同

喪中二付年始欠禮仕候
古川傳一
植田町

川崎文治
常警毎日新聞社

植田郵便局長
馬上守一
警城工業商會
中村佐治助
平四丁目電話 二一八

恭賀新年
 代議士 木村清治
 縣會議員 山崎吉平
 縣會議員 鷺清昇
 縣會議員 野崎滿藏
 植田郵便局長 馬上守一
 警城工業商會 中村佐治助
 平四丁目電話二一八

うき世診断

カフエー變態記 (一)

醫學博士 鼻毛與夢平

鼻毛を讀むに不便だらうに
 近頃のカフエーにはいやに電
 燈料を節約したしみつたれの
 が多い。

早曉、または黄昏の落ちつ
 いた感じを出した照明なら野
 暮な筆者と雖も決して文句は
 つけないが、薄暗いのが流行
 だからといって無暗に小さい
 電燈をつけられたのでは、ま
 るで共同便所か、刑務所の廊
 下のやうで、どうにも我慢が
 ならぬ。

それは筆者のやうな聖人、
 君子の仰ることでは、カフエ
 ーをほつき廻る人種には、
 この薄暗いカフエーも満更捨
 てたものではないのである。
 捨てるどころか、大いに珍重
 してゐる向もあるのだから、
 世間は廣い。

さむ空の冬の宵、酒場はスト
 プにむし返るやうだ。血のや
 うに赤いカクテルがある、猥
 雑な芳香を放つチースがある、
 一間のソファに男、女、男、
 女、男、八人も男女が、目白押
 しに腰かけて軽く酔つてゐる。
 女の呼吸が男の頬にかゝる、
 擦れ合ふ肩先は汗ばんでゐる
 う……。

それで三尺もさだかならぬ
 ほど薄暗いのである、實際問
 題として隣の男の指が何處に
 どう紛れ込んでゐるか分らん
 となつたら、カフエー患者で
 なくとも人間叛逆氣を起して
 つひ入つて見る氣になる、こ
 の不景氣に、薄暗いカフエー

の繁昌してゐる所以である。

話が早いと噂されてゐるカ
 フエーステージ、其他のカフ
 エーなどの景氣が、いゝのでも
 分る通り、一体カフエーだの
 パーだのは風紀が、いゝこほめ
 られるよりも、悪いと評判さ

スズラン
 新年撞球大會

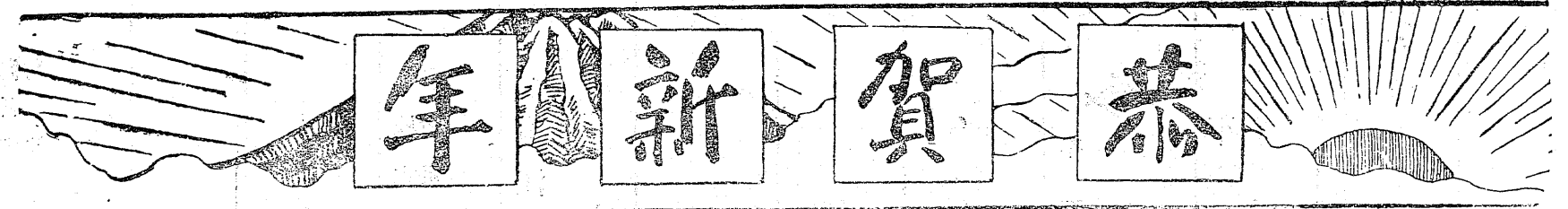
一等金拾圓は
 佐藤巖氏の手

平町南町スズラン撞球場では
 新年撞球大會を六日午前十時
 より開始されたが、参加者四
 十数名の多数にて午後十一時
 半盛大裡に閉會したが、左の
 諸氏が受賞した。

- ▲一等佐藤▲二等鈴木▲三等
 古澤▲四等花澤▲五等松本▲
 六等鬼澤▲七等岡田▲八等小
 川▲九等久保田▲十等猪股

れる方が得らしい。そしてス
 テージもその他のカフエーも
 赤い、青い、貧弱な照明で薄
 暗いので世話はない。

人間何事かを悪作をせんと
 する時には、暗黒を欲する。
 これは人情だ、泥棒だつて書
 間の仕事はやりにくい、娼婦
 だつて電燈を消したがる、上
 品向きの金のかゝつた間接照
 明でなく、たゞ徒らに暗くし
 たカフエーの多くなつたのも
 或はこの人情の弱点をつかん
 だものかも知れない。



<p>平町五丁目 久 釜屋商店 電話 一三九番</p>		<p>縣會議員 鈴木辰三郎</p>		<p>加藤丈夫</p>		<p>關内正一</p>		<p>新築落成 千葉彦治</p>		<p>鈴木源造</p>		<p>伊藤淺之助</p>		<p>高橋龜松</p>		<p>山崎與三郎</p>		<p>馬目唯次郎</p>																									
<p>平製水株式會社 加納五郎</p>				<p>東部電力株式會社 平營業所</p>				<p>雜貨物 大一屋商店 平町(電話一三番)</p>				<p>日活 平館 館主 松田卯次郎 電話四六六番</p>				<p>御料理 丸新館 平驛前通り</p>				<p>警城國平驛前 つたや旅館 柏木勝利 電話三三二番</p>				<p>諸機械製作・自動車修繕 附屬品販賣 北條製作所 自動車修繕部 平町白銀町(電話七四〇番)</p>				<p>平町三丁目 西村屋藥舖 電話三番</p>															
<p>マルカ書房 店主 加藤正保 平驛前</p>				<p>平町十五丁目 スズラン撞球場</p>				<p>山野邊藥局 山野邊東次郎 平町五丁目角</p>				<p>洋酒罐詰問 各國果物屋 近江油紙屋 藤居商店 平町白銀町(電話五四三)</p>				<p>内外果實問屋 和洋食料品問屋 好川屋商店 平町驛前</p>				<p>銘酒「由良之助」 永山酒造店 小賣部 電話二〇七番</p>				<p>御料理 山田屋本館 御旅館 山田屋別館 小名濱町(電話八番・七〇番)</p>				<p>御料理 新米</p>				<p>御料理 壽々喜亭 平町田町(電話五八番)</p>				<p>西洋料理 牛乳販賣 益子屋 平驛前(電話六〇八番)</p>				<p>平町田町(電話四六五番) マルト撞球場</p>			

謹賀新年

(順列不同)

安島重三郎 石城郡山田村	植田水力電氣株式會社 社長 金成通	小野務平 小名濱町	磐越銀行 頭取 中野甲藏	小野晋平 小名濱町	小名濱町 町長 鈴木榮	小名濱町 助役 高木保	銘酒「白馬之雪」 松本徳一 平窪村	株式現物賣買 駒場四郎商店 平町田町六八 電話四六五	平町旅館組合	石城郡銀行組合	入山探炭株式會社	草野七五三之助	平町料理屋組合
-----------------	----------------------	--------------	-----------------	--------------	----------------	----------------	-------------------------	----------------------------------	--------	---------	----------	---------	---------

御料理館 大村屋旅館 主 大村一郎 電話一七五番	四倉銀行會社組合	多田井笑次郎 平町大工町	株式會社 七十七銀行平支店 山田勇太郎	堀江工業株式會社 江口忠一	洋食部 平町田町(電話四番)	磐城共濟病院 平町(電話六四一番)	磐城水産工業株式會社 支配人 福尾伊太郎	平町三丁目 三井吳服店 電話三八番・七五番	平產婆看護婦學校 看護婦會長 清野キヨ	平町信用組合 有限責任	大谷時計病院 平町三丁目(電話十九番)
-----------------------------------	----------	-----------------	------------------------	------------------	-------------------	----------------------	-------------------------	-----------------------------	------------------------	----------------	------------------------

矢吹醫院 矢吹大輔 電話二六六番	鈴木眼科醫院 鈴木亮 電話四三八番	吉田眼科醫院 吉田安雄 電話六八番	藤沼醫院 藤沼平次郎 電話五〇七番	大森醫院 大森勇 電話二五八番	酒井醫院 酒井國三郎 電話五五番	大和田耳鼻喉科醫院 大和田那司 電話一七〇番	松村病院 松村鐵郎 電話一〇七番	星眼科醫院 星恒明 電話四七一番	金成醫院 金成忠義 電話三五八番	赤心堂病院 新妻由五郎 電話四七五番	木村外科醫院 木村新川町 電話一六四番
------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-----------------------	------------------------	------------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	--------------------------	---------------------------

諸橋吳服店 平町新川町	なかや洋服店 平町二丁目 電話二〇三番	阿部唯次郎 平町會議員	勇屋履物店 平町四丁目	大平屋藥店 平町一丁目	乾書店 平(電話三五五番)	高岡屋商店 平町一丁目 電話四〇六番	小野常治 平(電話一四四番)	關內精米所 平長橋町 電話八一〇番	西洋料理 カフェー 平驛前(電七六五)	加納外一
----------------	---------------------------	----------------	----------------	----------------	------------------	--------------------------	-------------------	-------------------------	------------------------	------

和久井屋漆器店 平町一丁目(電話四五)	平町西洋料理組合	石城郡第四區 小學校長會	石城郡第一區 小學校長會	石城郡第二區 小學校長會	平町材木商組合	平運輸株式會社	原齒科醫院 電話三十一番	合資會社 平銃砲藥店 平町四丁目	會田時計店 平四丁目(電話三六三)	福島農工銀行平支店	安部六三郎	平町會議員 平公私立學校長	懇和會	石城郡第三區 小學校長會
------------------------	----------	-----------------	-----------------	-----------------	---------	---------	-----------------	---------------------	----------------------	-----------	-------	------------------	-----	-----------------

恭賀新年
新古書籍 雜誌・講談本
繪本類も豊富に取揃へあり
文福堂
磐銀行平〇店横

平町四丁目(停車場通角)
柴田書店
電話二三四番

平白銀町
丸山印刷所
電話七五七番

平町二丁目
遠藤帽子店
電話八三四番

平町四丁目(電話四〇番)
關內藥店
關內榮助

平町四丁目
ツルヤ洋品店
電話一四〇番